

## ◎中野学校研究の画期的な成果—— 山本武利著『陸軍中野学校』（筑摩書房）

## 1. なぜ画期的か

- ・CIAに関する著作、ケネディ暗殺に関する著作がなぜ多いか。それと同じ理由で「中野学校」に関する著作も多い。様々な立場から、様々な局面について多々出版されてきた。しかし、学術的検証にも耐える本格的な研究は中野学校に関してはなかったと言っても過言ではない。
- ・しかし、山本先生も書いてられるように、本書は国立公文書館アジア歴史資料センターで入手した文書など、「公文書」を基に事実を裏付けた研究として注目されている。  
P 49「4 中野学校の名称の変遷と設立場所」以降、5「予算請求書類」、6「秘密管理」、7 掲載の「組織の一覧表」など多々公文書ならではの記述が見られ、類書にない優れた記録となっている。
- ・本書は中野学校創設に貢献した人物として2人を挙げ、筋を明確にしている。  
一人は陸軍の中樞にあって、体系的な発想を持った奇才、岩畔豪雄(1897～1970)  
あと一人、秋草俊 (1894～1949)は1940年発足した中野学校の先駆けとなった1938年の「防諜研究所」、1939年の「後方勤務要員養成所」から手がけ、インテリジェンス要員養成の実務に長ける。
- ・P172の「第六章昆明に見る中国人女性スパイ工作」といった、彩り豊かな記述も面白い。
- ・一期生の卒業生名簿（P87）の中の一人、牧澤義夫さんは私もお世話になった人で、昨年101歳の波乱に満ちた生涯を終えられた方で、彼が敬愛されていた三笠宮殿下と相前後して鬼籍に入られたことは残念でした。彼とほぼ同年で、2015年に100歳を迎えた元CIAのエリザベス・マッキントッシュさんについては、当時のジョン・ブレナンCIA長官がCIA本部に彼女を招いて100歳を祝うパーティを催した扱いとは対照的。

## 2. 疑問

- ・本書P P273～274「日米安保体制において・・・旧陸軍のインテリジェンス・オフィサーはもちろん中野出の幹部も初期の自衛隊に登用されるものは少なかったし、中野の体験、蓄積したノウハウもほとんど無視された」のはなぜか？
- ・GHQ「歴史課」に河辺虎四郎中将（参謀次長）、服部卓四郎大佐ら
- ・牧澤義夫氏は筋金入の「反米」
- ・終戦直前の「中野グループの動き」： 在京中野グループは一期生を中心とした数十名。本土決戦のため、クーデターを計画、老幼婦女子を「安全な大陸に移す」計画。（日下部一郎著『陸軍中野学校実録』KKベストブック、2015年、PP148～182）  
ポツダム宣言受諾後、中野グループは天皇の血統護持のための北白川若宮擁立計画。

3. インテリジェンスとは： All past history shows that espionage has been generally successful and intelligence has been generally a failure. (スパイは概して成功するが、インテリジェンスは概して失敗であることを過去のあらゆる歴史が示している)：

Carroll Quigley, *Tragedy and Hope*, The Macmillan Company, 1966, P919

・情報オペレーション—情報収集—→分析

＼秘密工作(covert action)=gang of eight承認要、過去は303委、40委等 cf:中野出

・スパイは2番目に古い職業：最も古い記録

旧約聖書ヨシュア記（イスラエル人がカナーン人の民族浄化を行い約束の地を征服する歴史）

1～2章：モーゼの後継者、ヨシュアによるヨルダン川徒渉の準備、斥候によるエリコ偵察

2章：ヌンの子ヨシュアは、シティムからひそかにふたりの者を斥候として遣わして、言った。「行って、あの地とエリコを偵察しなさい。」彼らは行って、ラハブという名の遊女の家に入り、そこに泊まった。エリコの王に、「今、イスラエル人のある者たちが、今夜この地を探るために、はいつて来ました。」と告げる者があったので、エリコの王はラハブのところに人をやって言った。「あなたのところに来て、あなたの家にはいつた者たちを連れ出しなさい。

その者たちは、この地のすべてを探るために来たのだから。」（「その人たち」を屋上の亜麻の—→神が土地を与える：Beruf、Calling 清教徒の北米移住と先住民虐殺・征服 「神の思し召し」ですべてを正当化（一神教）

・クラウゼヴィッツ 対 孫子

クラウゼヴィッツ「戦争論」：Karl von Clausewitz(1780~1831)プロイセンの軍人、少将  
岩波文庫（上中下）1968、明治政府はドイツ陸軍少佐メッケルを通じてクラウゼヴィッツのプロイセン兵学を吸収。戦争は「異なる手段を以ってする政治の継続」（上P58）

\*詭計（上P306）「詭計は、事が成就したあとから見ると、欺瞞とさえ言ってもよい」「詭計を用いる人は、相手の知力を惑わしてさまざまな過ちを犯させる」「詭計は行動の手段」

\*総動員態勢の近代戦「国民の総力を挙げて遂行される近代戦」（P340）

\*情報「第六章 戦争における情報」（上P128~130）「情報」という語は、敵地および敵国に関する知識の全体を意味し、戦争における我が方の計画ならびに行動の基礎を成す」（P128）

「危険に関する情報は、いわば大海の波のようなもので…指揮官は、自己の信念に徹し…あたかも海中に屹立して波の砕けるにまかす巨岩のごとくでなければならない」（P129） **精神論**

「軍の指揮官は…ただ長い戦闘経験だけが…立ち所に判定する練達を達得する」(分析概念なし)

孫子「兵法」春秋時代（BC770~403）「呉」の兵法家・孫武とその子孫の作

参金谷治訳注『孫子』岩波文庫、2000年、浅野裕一『「孫子」を読む』講談社現代新書、1993  
林羅山、山鹿素行、新井白石、荻生徂徠、佐藤一斎、吉田松陰

\*情報の重視（第13用間篇）「爵禄百金を愛みて、敵の情を知らざる者は、不仁の至りなり」  
「三軍の親は、間よりも親しきはなく、賞は間よりも厚きはなく、事は間よりも密なるはなし」

・5種類のスパイ①因（郷）間（敵国の村里のスパイ、情報収集）

②内間（敵国から内通する官吏、情報収集）

③反間（自国のために働く敵国のスパイ、情報収集）

④死間（自国諜報員、謀略活動、謀略情報を敵に伝え、最終的に処刑）

⑤生間（自国諜報員、情報収集、繰り返し潜入、生還して情報伝達）

第1計篇 兵とは詭道なり（戦争は敵をだます行為。囮、陽動作戦、奇襲、待ち伏せ、迂回、背後遮断）